



茨城県建築士会
まちづくり委員会
推奨

ひとたちのく

常陸国の むかしの家

[体感ルート・ガイドマップ] 陸前浜街道・常磐編

はじめに

茨城県建築士会まちづくり委員会では、平成19年から、茨城に残る“むかしの家”を再評価しその魅力を伝える「体感ルート・ガイドマップ」の作成に取り組んでいます。

茨城県は、2011年に東日本大震災とそれによる津波、翌年にはつくば市周辺の竜巻、昨年には常総市の大水害と、立て続けに自然災害に見舞われ、多くの歴史的なまち並みや建物を失ってきています。それによってこのプロジェクトの目的も、「地域の歴史や営みの紹介」という当初のものに加え、「人々の記憶の記録」という意味合いが強まり、継続する意義を深めています。

シリーズ第5弾となる本誌では、陸前浜街道沿い、常磐地域の南側に残るむかしの家々を紹介しています。近代に入り、この地域では常磐炭田や日立鉱山の資源開発があり、そこから始まった近代産業の発展は日本の産業革命の一つと数えられました。当時の産業遺産も含めて紹介しているのが、第5弾となる本誌の大きな特徴と言えます。

まち並み散策エリアとしては、日立市白銀町の旧共楽館界隈、同じく日立市川尻町、高萩市松岡地区、北茨城市平潟町の4か所を取り上げました。震災を契機に取り壊された建物も多く、歴史を感じることができる建物は多くは残っていませんが、カーブした通りや町割りから、かつての時代の息づかいを感じていただければと思います。

この冊子がきっかけとなって、地域の人々の暮らしとともに歩んできた歴史的な建物の魅力・価値を見出し、あらためてご自身が暮らす地域の魅力にも目を向けることにつながれば、たいへんうれしく思います。

茨城県建築士会まちづくり委員会一同



1 全体マップ

日立

- 4 大みかクラブ—— 瀟洒な高床式神殿造りの木造建築
気品漂う建具や照明も魅力
- 8 日鉦記念館 鉦山資料館—— 木造トラス組みの大空間に展示される
コンプレッサーや削岩機の重厚な存在感
- 12 旧共楽館 (日立武道館) —— 往時の賑やかな繁栄の様子を
今に伝える旧劇場
- 16 暇修館—— 水戸藩で5番目に古い郷校
- 16 小野家住宅—— 貴重な茅葺きの曲り屋

日立市 川尻

- 18 森島酒造—— 横山大観に愛された、海岸沿いの石蔵の酒蔵
- 20 佐野味噌店—— 昭和元年からまちを見守り続ける
- 20 江幡商店—— 江戸末期築の建物を昭和中期に改修

高萩

- 22 穂積家住宅—— 地域経済の中心を担った豪農住宅の堂々たる風格
- 26 たつご味噌蔵—— 複雑に絡み合う小屋組みに先人の技の粋を見る

北茨城

- 32 砥上屋旅館—— 平潟港を眼前に眺める木造3階建ての旅館
- 35 旧びすとれ—— レンガ造りの建物は、かつての海産物集積場
- 36 天心邸・六角堂—— 日本近代美術の黎明の地
- 38 野口雨情生家—— 殿様の休息所を受け継いだ国民的詩人の生家
- 39 宇佐美家—— 和の屋敷と洋の館がそろう踏み

- 40 タイムテーブル
- 41 茨城県建築士会について

コラム [いばらきみより豆知識]

- 14 石岡第一発電所
(北茨城市)
—— 国内初の鉄筋コンクリート主体の発電所

日立鉦山が
近代日本に残した
多大なる功績

- 15 旧町屋変電所
(常陸太田市)
—— レンガ造りの
趣ある建物

コラム [いばらきみより豆知識]

- 20 江戸時代には鯉の水揚げ港
として知られた川尻漁港

- 21 「金色姫」が
もたらした賑わい

コラム [いばらきみより豆知識]

- 25 萩の季節限定のレストラン。
穂積家で味わう
常陸牛の贅沢ランチ

- 28 昔ながらの工法で造る
味噌の味わい。
加工品も人気!

- 29 高萩の偉人①
松村任三 (植物学者)

- 高萩の偉人②
長久保赤水 (地理学者)

- 30 昭和20年代にこの地で
栄えた常磐炭田。
今も残る重厚な産業遺構

海と山を擁する高萩は、
自然を満喫できる
景勝地の宝庫!

コラム [いばらきみより豆知識]

- 34 北茨城といえば
「あんこう鍋」!



明治から昭和の
活気ある時代の姿が
色濃く残るまち

日立

大みかクラブ

瀟洒な高床式神殿造りの木造建築
気品漂う建具や照明も魅力



左：ゴルフコース側からみたクラブハウス。敷地の傾斜を生かした高床式の構造がよくわかる 上：銅板葺きの品格ある切り妻屋根

昭和11年(1936年)、日立製作所の従業員の福利厚生と海外からの来客接待を目的にオープンした「日立ゴルフ倶楽部」のクラブハウスとして建てられました。

設計は、東京大学の安田講堂などを手がけた近代建築の巨匠、岸田日出刀によるもので、自身もゴルフに親しみ日本選

手権競技に出場するほどの腕前だったそうです。戦前4つのゴルフ場クラブハウスを設計していますが、大みかクラブはその一つです。戦後一時期、改造され米進駐軍の宿舎、来客用のクラブとなりました。

敷地の傾斜による高低差を利用し、

室内から板貼りのテラス越しにゴルフコースを一望できる開放的な建物です。銅板葺きの切り妻屋根、高床式の神殿造りの木造平屋建てで、内外部ともに構造材と壁の漆喰や木板のコントラストが美しい意匠です。

ゴルフクラブのコースは井上誠一設計

で当初は18ホールでしたが、戦時中は芝をはがし食糧増産のため畑に転換されたものの、戦後、当初のコース設計を模してショートコースの3ホールで再開しました。現在は6ホールを3周して18ホール、パー72のコースとして運営されています。

クラブハウスに隣接している宿泊棟に



ロビー空間。品位あふれる照明や調度品も魅力的だ



クラブハウス内部 (P3の写真) にある石造りの暖炉

は、昭和49年(1974年)に開催された「茨城国体」の際に昭和天皇皇后両陛下がご宿泊された客室が、内装や調度品も当時のままの状態が残されています。

ゴルフのプレイと合わせた一泊二食付きの「ゴルフパック」が、魅力的な価格で一般の方にも提供されています。

クラブハウス建設の翌年昭和12年(1937年)に、敷地内に大甕陶苑おおみかとうえんが建設されました。日立製作所が社内外の文化向上を目的として、社員がゴルフに興じる合間に家族とともに陶芸を楽しめるように作られた施設です。木造の主屋と登り窯で構成されています。

所在地：日立市大みか町6-19-22
 建築用途：クラブハウス
 建てられた時期：昭和11年
 構造・特徴：木造平屋建て、切り妻屋根、高床式神殿造り
 問合せ：株式会社日立製作所日立事業所
 大みかクラブ TEL.0294-52-5050

宿泊棟



白い柱が印象的な階段室

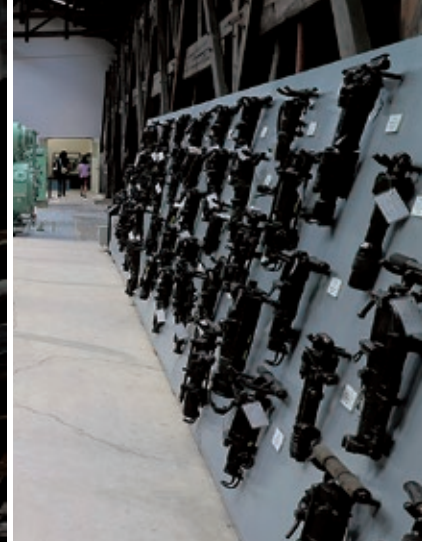


昭和天皇皇后両陛下が宿泊された客室がそのままの状態が残る



社員と家族が陶芸を楽しんだ施設「大甕陶苑」





日鉱記念館 鉱山資料館

木造トラス組みの大空間に展示される
コンプレッサーや削岩機の重厚な存在感

日鉱記念館

日立鉱山は明治38年(1905年)12月、^{くはら}久原房之助が当時の赤沢銅山を買収し、日立の地名をとって日立鉱山と改称して開業しました。以来、昭和56年(1981年)の閉山までの76年間、わが国の近代化と経済成長に寄与してきました。その日

立鉱山跡地に、日鉱記念館本館・鉱山資料館・旧久原本部(県指定史跡)・塵外堂・堅抗櫓などが建てられています。

鉱山資料館

第2次大戦中の昭和19年(1944年)にコンプレッサー室として建設されました。当時は資材不足のため、建物は木造のト

鉱山資料館の内部。かつてのコンプレッサー室がそのまま資料館として使用されている。専用の機器が整然と並べられた迫力の空間

ラス組み、内部のクレーンの走行枠も木材で組み立てられています。切り妻屋根にトプライトが設けられ、小屋組みを明るく照らしています。ここでは大型のコンプレッサー・削岩機などの鉱山で使用された様々な機材、および世界各地で産出された約400種類の鉱石標本を展示しています。

^{くはら}旧久原本部

明治38年(1905年)、日立鉱山開業時に日立鉱山開発の本部として建てられた平屋の小家屋です。久原房之助が住んでいた時期もあります。建設当初、屋根は木^ば羽葺きでしたが、老朽のため雨漏りが生じ、銅板の一字葺きに替えられました。

旧共楽館 (日立武道館)

往時の賑やかな
繁栄の様子を
今に伝える
旧劇場



現在の建物内部。武道場として改修されている



共楽館時代は催しのたびに超満員になった 写真：国安滋氏蔵

旧共楽館（現在の日立武道館）は、登録有形文化財。東京の歌舞伎座や帝劇を参考に大正6年（1917年）、日立鉱山が建設しました。設計を担当したのは、鉱山技師たち。当時の共楽館は、帝国劇場にひけをとらないほどの立派な劇場と地元の人々にはとらえられていたようです。

間口16間、奥行21.5間の建坪338坪で建物は左右対称での2階建て。正面には唐破風の屋根を持つ階段室があります。本館の棟には鬼板を乗せ、屋根の左右対称には千鳥破風を据えた大型木造建築です。

大正から昭和30年代まで日立の文化の中心的存在で、日立鉱山の従業員だけでなく地域住民の憩いの場であり、歌舞伎、大相撲、映画、講演会、展覧会などあらゆる催しものが行われていました。

昭和42年（1967年）に市に寄贈されてからは「日立武道館」として使用されています。平成23年（2011年）に耐震補強等の工事が行われ、改修されました。

本館内部は武道館となりましたが、玄関、階段室や廊下等には共楽館当時の劇場の面影が現在も残っています。



所在地：日立市白銀町2-21-15
建築用途：
福利厚生施設→武道館
建てられた時期：大正6年
構造・特徴：木造2階建て、幅22mの大空間、格天井、唐破風屋根
問合せ：日立武道館
TEL.0294-22-0361

旧共楽館（日立武道館）の界隈に残るむかしの家々

日立鉱山の創業者である久原房之助は「一山一家」の鉱山、「自然・地域と共存共栄する理想鉱山都市」の実現のため、共楽館などの福利厚生、学校、病院、生活関連施設等の整備に力を注ぎ、旧共楽館界隈はかつて日立随一の繁華街として賑わいま

した。日立駅(当時・助川駅)とこの界隈にある「大雄院駅」までは無賃電車が走り、昭和35年まで物資と人員の移送で大役を担ってきました。現在も旧共楽館を中心に日立鉱山(旧日立)を中心にその当時の繁栄の跡を垣間見ることができます。(永井)



石岡第一発電所（北茨城市）——国内初の鉄筋コンクリート主体の発電所

日立鉱山の安定的な電力確保のための自家発電所建設は久慈川支流里川水系で始まりましたが、新たに建設中の精錬所を完全稼働させるには不足となり、さらなる発展のために行った電源開発が北茨城市中郷町の石岡第一発電所です。日立鉱山と企業としての日立の発展に重要な役割を果たすこととなります。

明治42年(1909年)、大北川の水利権が確保され建設工事が開始、送電線や発電施設が建設されました。発電所本館や取水堰堤、沈砂池、水路橋、水槽など、当時としては新技術である鉄筋コンクリートが広範に使用された国内初の発電所であり、後の大煙突と共に日立鉱山の特徴と言え、土

木建設部門発展の礎となっていきました。平成20年(2008年)、発電所施設の10の建造物が国の重要文化財に指定されましたが、平成23年(2011年)の東日本大震災により設備が損傷。復旧工事が行われましたが、水槽のみ指定が解除されています。(梶)



国の重要文化財に指定されている石岡第一発電所

日立鉱山が近代日本に残した多大なる功績

苦心惨憺處(くしんさんたんこのところ)…。日立鉱山の創業者である久原房之助が創業当時を回顧して語った言葉が現在の日立資料館、旧久原本部の石碑に残されています。常陸の戦国大名だった佐竹氏が鉱床を発見してから三百余年、徳川家・水戸藩ですらどうすることもできなかった赤沢鉱山を、久原房之助が買収したのは1905年のことでした。資金難、地域住民や従業員との軋轢、公害等に苦しみながらも、長州閥の大物である井上馨の援助を受け、機械化を推進、新技術を積極的に導入し、安定的な電力供給のため、現在の日立市の中里、常陸太田の町屋、北茨城市の石岡に発電所を矢継ぎ早に建設しました。

大銅山(足尾、別子、小坂、日立)の一角を占めるにまで急成長を遂げました。1905年から1981年の閉山までの76年間に、約3000万トンの粗鉱、約44万トンの銅を産出。日立鉱山を母体として久原財閥が生まれ、現在のJX金属や日産グループへとつながり、また、日立鉱山の機械の修理部門から日立製作所が創業して、1910年には国産初の5馬力誘導電動機(モーター)を完成させています。日立鉱山を源始とする近代産業は日本の産業革命の一つとして大きな足跡を残しているのです。(永井)



大正後期、共楽館を取り巻くように多数の住居が軒を連ねた写真：日立記念館蔵

また亜硫酸ガスの対策として、当時は世界一の高さを誇った155.7mの大煙突(現在はその1/3が残る)を建設。1915年にその使用を開始してからは煙害が激減していきました。このような大胆な施策と時代の好景気の波に乗って、日立鉱山は日本の四

旧町屋変電所（常陸太田市）——レンガ造りの趣ある建物

レンガ造りのこの建物は、日立鉱山が電力確保のために建設した町屋発電所の変電施設として、明治42年(1909年)に建てられました。その2年後、常陸太田市の茨城電気株式会社が中里発電所とともに買い取り、明治44年(1911年)12月に太田地区から町屋地区にかけて電灯が灯りました。

昭和31年(1956年)、発電所が廃止になった後は地域の集会所などに活用され、現

在は「河内の文化遺産を守る会」が中心となり、周辺整備も含め地域の人たちの手で保存・活用が図られています。

旧町屋変電所は平成11年(1999年)、国の登録有形文化財となっています。(梶)



行灯(あかり)の赤レンガと銀杏まつり

か しゅう 暇修館

水戸藩で
5番目に古い郷校



水戸藩に設立された15の郷校のうち5番目に古い「暇修館」は天保10年(1839年)、徳川斉昭によって、元の大窪城郭の一部に設立されました。ちなみに国の重要

文化財となっている水戸藩校の弘道館は天保12年(1841年)の設立です。その後も学校として利用されてきましたが、老朽化のため惜しくも昭和39年(1964年)に解体されました。昭和48年(1973年)、設立当初の間取り図を元に忠実に復元され、現在、生涯学習の場として活用されています。



小野家住宅

貴重な茅葺きの曲り屋

日立市に残る貴重な茅葺きの民家です。主屋と厩(馬屋)がL字形で配置されていることから「曲り屋」と呼ばれます。この形式の建物は全国各地に分布しますが、茨城県では北部一帯から太平洋沿岸にかけての地域に多く存在しました。小野家はかつて水戸藩の村役人・横目庄屋を代々担ってきました。建築年月は18世紀前期と推定されます。茨城県指定文化財。



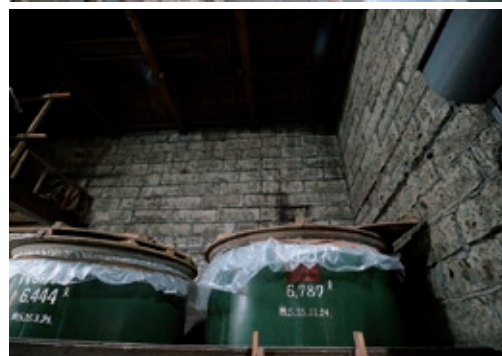
日立市 川尻



美しき海からの
豊穡な恵みで
栄えたまち

森島酒造

横山大観に愛された、
海岸沿いの石蔵の酒蔵



創業時の蔵が第二次世界大戦で焼失したため、再建は大谷石で

県下酒蔵の中でもっとも海に近い森島酒造。川尻町の海岸沿いまで直線距離で30mという位置に建つ酒蔵です。

明治2年(1869年)創業。第二次世界大戦時に蔵も家屋も焼失してしまったということで、創業時の建築物は確認できませんが、物資が不足する中でも、大谷石と木材を確保しつつ終戦翌年に蔵を再建。酒造りを再開し現在に至ります。

再建からもすでに70年の時を刻んできましたので、大谷石の壁と木造の小屋組み、それぞれの樽から麴の香りが漂い、建屋の年季を感じさせます。

先に触れたように、海岸まで30mとい

う至近距離に位置する酒蔵のため、平成23年(2011年)の東日本大震災時には地震と津波による被害も大きく、周辺道路や宅内地盤の亀裂、大谷石の破損・大規模なクラックが発生しました。

それでも、再建時にしっかり建造されていた建築物だったということもあり、丁寧な補修工事が進められ、今も現役で酒造りを支えています。

海に近いことでの被害もありましたが、蔵の地下100mから汲み上げるカルシウムやマグネシウムといったミネラル分が多い阿武隈山系の硬水を使用するからこそ生まれる、味の深みや芳醇な香りは他に

は替え難く、この建築物がこの場所に建つ意味を教えてください。

水戸市出身である近代日本画の巨匠、横山大観と深い親交があり、巨匠自らが名を与えた銘酒「大観」で知られる酒蔵です。



昭和21年ごろの様子

所在地：日上市川尻町1-17-7

建築用途：酒蔵

建てられた時期：昭和21年

構造・特徴：石造(大谷石) + 木造

大谷石を積み上げた内外壁と木造の小屋組み、屋根には和瓦と沿岸に適した材料を用いて建築されている

問合せ：TEL.0294-43-5334



「大観」の銘柄は昭和28年に誕生した

6代目の森嶋
正一郎さん

佐野味噌店

昭和元年からまちを見守り続ける

明治38年(1905年)創業の味噌店で、保存料を使用しない昔ながらの味を今に伝えています。目抜き通り(旧街道)に面した店舗は一見右側の方が新しく感じますが昭和元年(1926年)の建築で、左側の板張りの建物は昭和20年(1945年)に建てられたもの。味噌の香り漂う店内は木目に時代を感じる梁を現したままの簡素な仕

上げですが、古い木製の冷蔵庫や黒光りする金庫、掛け時計などはまるで時間が止まっているかのような趣です。店の裏手にある大谷石の蔵は大正12年(1923年)6月竣工。関東大震災や東日本大震災をくぐりぬけ、今もまちの歴史を見守り続けています。



江幡商店

江戸末期築の建物を昭和中期に改修



現在肥料と米穀を扱う江幡商店は、初代松吉氏が明治24年(1891年)に水戸から移り住んで創業しました。創業当初は日立市北西部の高原集落から切り出した天然水を卸す水店でした。店舗建物は創業時に当時呉服店だった建物を購入したそうで、口伝によ

ると築年代は江戸末期だそうです。もともと外壁は1階がしぶき板張り、2階その他は漆喰塗込みでしたが、昭和中期に現在の外観に改修しました。2階は天井が低く現在は倉庫として使用。敷地裏には一部改修されていますが、創業時に建てられた土蔵が残っています。

コラム
いばらき
みみより
豆知識

江戸時代には鯉の水揚港として知られた川尻漁港

漁港として発展した川尻は、江戸時代の諸国鯉節番付に末席ながら名前が載るほどの鯉の水揚量を誇っていました。鯉加工品も有名で、古い文献にも「常陸水戸領川尻肉醬(たたき)は初雪の頃の將軍への献上品なり」とあります。最盛期には魚を扱う五十集(いさば)が176件もあったという盛況ぶり、時には大漁過ぎて困惑し不漁となるおまじないまでしたのだとか。

つてはまちの8割は何らかの店舗を営んでいたというほど栄えた川尻ですが、当時の建物も年々消え、今その面影はわずかなものです。

諸国鯉節番付。川尻の名も下のほうに見える



川尻のまちの歴史

日立市の中心部から北へ車で約20分行ったところにある海岸沿いの町、川尻。江戸期は水戸藩領で漁業と海産物加工が産業の中心でした。まちを陸前浜街道が通ることから市場も開かれ活況を呈したといえます。現在も旧街道沿いには酒や味噌の醸造蔵のほか、伝統的な商家建築もわずかに残され往時を偲ばせます。(梶)

館山神社



国道6号線をはさんで蚕養神社と向き合うように建つ館山神社。

蚕養(こがい)神社



昔から近隣の養蚕農家が大勢参詣に訪れたという蚕養神社。詳細は下記コラムを参照。

かめや食堂



このまちの名物手打ちそば店。平日昼のみの営業で、連日昼すぎにはそばが売り切れるという人気ぶり。天麩羅付きのこのボリュームで値段はなんと600円!



コラム
いばらき
みみより
豆知識

金色姫がもたらした賑わい

中心街の北方、太平洋に面した小高い丘の上に蚕養(こがい)神社があります。ここにはその昔、天竺の近くの旧仲国の王女で、死後蚕になったという「金色姫伝説」が伝わっています。そのため近隣の養蚕農家が講*を作って続々と参詣、大正のころは臨時列車が出るほど。往時は旅館も妓楼もそれぞれ10件以上あり、漁業の発展も相まって川尻のまちは賑わいました。*講:同一の信仰を持つ人々による、集落などの伝統社会における結合の単位

太平洋



佐野味噌店

左ページ参照

江幡商店



左ページ参照

森島酒造



日本画壇の巨匠、横山大観に愛された海辺の酒蔵。→p18

高萩

豊かな自然風土の中に、
歴史が息づくまち

穂積家住宅

地域経済の中心を担った
豪農住宅の堂々たる風格

穂積家住宅は江戸時代中期に建設された豪農の住宅です。これまで寛政元年(1789年)の建設とされてきましたが、近年の改修工事で安永2年(1773年)建立という墨書が発見されました。

穂積家は豪農の家柄として地域経済において大きな役割を担い、その事業は、農業をはじめ、酒業や林業、金融業、製糸業にまで及びました。

現在は茨城県指定有形文化財に登録され、敷地内はもちろん駐車場・案内所まで整備されています。駐車場から水路と境界沿いに続く塀沿いに歩を進めると、立派な構えの長屋門が現れます。その長



「五段茅葺中竹節揃角市松模様寄棟造り」の軒付け



農耕・酒造・造林等の多角的経営で財をなした穂積家。土間の広さも破格。写真は土間の奥から入口付近を見たところ



上：天井には松丸太の迫力の小屋組み／下：土間から上がった広間

所在地：高萩市上手綱 2337-1

建築用途：住宅

建てられた時期：安永2年

構造・特徴：木造

600φを超える松丸太を使用した小屋組みと、5段に積み重ねられた茅葺き屋根「五段茅葺中竹節揃角市松模様寄棟造り」が特徴的

問合せ：高萩市教育委員会 生涯学習課
TEL.0293-23-1132



2階建て長屋門も珍しい

玄関をくぐると敷地の中心に構える主屋が目の前に現れ、その奥に衣装蔵、向かって左側には土蔵が配置されています。主屋の右側には池を含めた庭園も整備され、豪農住宅としての豊かさを感じることができます。主屋は約120坪の寄棟茅葺きとなっていて、桁行12間・梁間6間の中心に、600～700φもある松丸太を使用した小屋組みで形成され、茅葺き屋根の軒付けは数段重ねて葺かれており、その造りは「五段茅葺中竹節揃角市松模様寄棟造り」と呼ばれています。実際軒付けを見上げると、重ね葺きによって生まれた市松模様がとても綺麗です。



奥座敷の建具などにも手の込んだ飾りが施されている

また、主屋右側に広がる縁側状の廊下に足を踏み入れると、縁側と一体となった池と庭園が目の前に広がり、当時の建築に対する美意識の高さを感じることができます。

萩の季節限定のレストラン。穂積家で味わう常陸牛の贅沢ランチ

秋の高萩の恒例企画として近年人気を集めているのが、穂積家住宅内に開設される期間限定レストラン「萩の茶屋」。高萩市が主催し、高萩市商工会と地元の有限会社五浦ハムの協力により運営され、穂積家住宅の風情ある空間の中で、「常陸牛」を使った「常陸牛ステーキ」や「常陸牛ハンバーグ」、「ハム焼」、「豚ドック」など、地域の食材を活かした味わい豊かなランチを味わえる。東日本大震災以降交流人口が落ち込んでいる県北地域に、観光客を呼び込む目的で2011年から始まり、2015年は2カ月の期間中約8300人が訪

れた。詳細は高萩市公式ホームページまたは、市企画広報課0293-23-2118まで。



期間限定で穂積家が雰囲気のあるレストランに



高萩市市制60周年
記念特別メニュー

コラム
いばらき
みみより
豆知識

たつご味噌蔵

複雑に絡み合う小屋組みに
先人の技の粋を見る



所在地：高萩市上手綱75
建築用途：味噌蔵、住居
建てられた時期：味噌蔵—
安政元年／主屋—明治4年

構造・特徴：味噌蔵—木造／多角
形の平面形状とそこに掛る複雑な
小屋組み／主屋—木造2階建て
問合せ：TEL.0293-23-5222



左：味噌蔵の外観／上：味噌蔵内部。並んだ樽の上には、複雑に絡み合う独特の小屋組みが見える

安政元年（1854年）創業の老舗味噌蔵です。

かつては童子山城（後に現松岡小学校が位置するところまで拡張し松岡城と改称）の城下町の一角に位置していました。

江戸末期から引き継がれる味噌蔵は、使い込まれた木製の樽からはもちろん、建屋内部全体に芳醇な香りが漂います。

もともとの蔵の平面形状によるものか、増築を重ねていく過程で生まれたのか、角度が折れ行く平面形状に沿って複雑に小屋が組み合っている造形はとても印象的です。

江戸末期に建造されたとはいえ、先人が組み上げた小屋組みは複雑ながらも

現在も安定していて、大工の技を垣間見ることが出来ます。

この味噌蔵のほかに、敷地内には代々引き継がれた住居と水戸黄門のドラマに出てきそうな茶屋兼直売所、それをつなぐ茨城県自然百選に選ばれたこともある庭園に囲まれています。



緑豊かな敷地内には茶屋兼直売所がある



上：茨城県自然百選にも選ばれた手入れの行き届いた庭園。写真中央が明治時代に建てられた主屋。その向かって右側に、大正時代に増築された洋室がある／左：主屋の1階にある店主の「七福神」コレクションコーナー／右：増築された洋室のモダンな内装

コラム
いばらき
みみより
豆知識

昔ながらの工法で造る味噌の味わい。加工品も人気！

安政元年創業のたつご味噌では、現在も昔ながらの方法で味噌造りを行っています。国産原料のみを使用した自慢の味噌「たつごの里」のほか、味噌から造る加工品も人気。中でもいちばん人気は、「めしどろぼうさん」。自家栽培の大葉、青唐辛子を使ったしそ南蛮味噌で、東京・銀座にある「茨城マルシェ」(県の名産品販売店)でもトップの人気を誇るクセになる味。

商品はたつご味噌のオンラインショップでも購入できますが、一度はぜひ、高萩の深い緑に囲まれた雰囲気あるたつご味噌の味噌蔵を訪ね、工場見学(要予約)後に、現地で購入してみたいかがでしょう。



「めしどろぼうさん」(左)と「たつごの里」社長の舟生佳紀さん



高萩のまちの歴史

この地での人々の暮らしの歴史は古く、6000年前(縄文時代)の「小場遺跡」が発掘されたり、1200年前の万葉集の中で「手網の浜の歌」としてこの地での営みが詠まれていたりします。明治以後、役所などが設置され多賀郡の中心地としての役割を担い、石炭産業などのまちとして昭和にかけて大きく経済的發展を遂げました。(李)



穂積家住宅
広大な敷地に建つ江戸時代中期の豪農の住宅で、主屋、長屋門、前蔵、衣裳蔵、庭園からなる。映画やドラマのロケにも使用される。→p22

神代家つじ堀
総延長はおよそ70メートルにもなる。地元の人々からは「つじ堀」の名で親しまれる存在。

**松岡城址
(アプローチ広場)**
竜子山城と呼ばれた山城を慶長7年(1602年)、入封した戸沢政盛が整備し、城の名を松岡城と改めた。その城跡に石碑などが建つ。

高橋家の門・堀
高橋家は水戸藩政時代に年貢や戸籍を取りまとめる郡奉行を務めた家柄であり、当時の武家屋敷の面影を偲ばせる貴重な建造物である。

たつご味噌蔵
安政元年創業の老舗味噌蔵。森に囲まれた広大な敷地内に茶屋兼直売所があり、工場見学もできる。庭園も見事。→p26

お屋敷通り
江戸時代には武家屋敷が建ち並んだ城下町。石畳は平成になって整備された。

**高萩の偉人①
松村任三(植物学者)**
松村任三(1856年～1928年)は、高萩市出身の植物学者で、東京帝国大学理学部植物学教室教授、附属小石川植物園の初代園長を務めた人物です。ソメイヨシノやワサビの名付け親であり、その他150種以上の植物に学名を付けたことで知られます。(永井)

コラム
いばらき
みみより
豆知識



高萩の偉人② 長久保赤水 (地理学者)

長久保赤水は、常陸国多賀郡赤浜村（現在の高萩市）出身で、江戸時代中期の地理学者、漢学者です。安永3年（1774年）には、ほぼ日本沿岸の地形に合った「日本輿地

路程全図」を作成。通称「赤水図」と呼ばれるこの地図は、伊能忠敬の地図より42年前に出版され、明治初期まで広く使用されたそうです。（永井

コラム
いばらき
みより
豆知識



長久保赤水旧宅の門

昭和20年代にこの地で栄えた常磐炭田。今も残る重厚な産業遺構

常磐炭田は常陸国から磐城国にかけて石炭が採掘された地域の総称で、「常」と「磐」を取って「常磐」と称したものです。北は福島県双葉郡の富岡町付近から茨城県日立市北部付近まで、南北約95kmに及び石炭分布地域を指し、太平洋と平行して連なる阿武隈高地の東縁の地表近くに石炭層が分布しています。江戸末期から昭和60年

（1985年）まで約1世紀の間、この石炭層を採掘するために大中小・零細の数多くの会社が進出し、最盛期の昭和20年代半ばにはその数130以上を数えたと言われます。昭和30年代以降、炭鉱は安価な石油に押され相次いで閉山となりました。北茨城市中郷地区の中郷鉱跡には、今もコンクリート造りの重厚な遺構を見ることができます。（梶）

海と山を擁する高萩は、自然を満喫できる景勝地の宝庫！

めがね橋

大正7年（1918年）に花貫川から水力発電用の水を引くために造られた橋は長さ77.4m、幅2.1m、地上からの高さが22.4mほどで、山に向かって2つのアーチを作る姿から、「めがね橋」と呼ばれています。

汐見滝吊り橋

県内有数の紅葉スポットでもある花貫渓谷の中程にある汐見滝吊り橋。長さ60m

程の吊り橋からは汐見滝や花貫川の清流を眺めることができます。

高戸小浜海岸

白く輝く砂浜、海食が生んだ2つの白崖とせり出す松の緑、その遙か先まで広がる空と海の青。このすべてが一枚の絵画のように美しい景色を形成する、自然が生んだ賜物です。横山大観や岡倉天心など多くの文化人も訪れたと言われています。（李）



左：めがね橋／中：汐見滝吊り橋／右：高戸小浜海岸



北茨城

平潟 大津港 五浦
華川 磯原

多くの文化人に
愛された、
茨城最北のまち



と か み や 砥上屋旅館

平潟港を眼前に眺める 木造3階建ての旅館

県内唯一の天然の漁港として、また棚倉藩時代には商港として大切にされた歴史を持つ平潟港。その港を眼前にして建つ木造3階建ての旅館です。2階までは江戸時代末期に建てられ、3階は明治43年(1910年)に増築されました。

終戦までは料亭として、その後は旅館としての役目を担ってきた風情ある佇まい。無名のころの横山大観もよく訪れ、景観を愛で、杯を傾けながら、絵画の道を模

索したと言われます。

以前は釣りや海水浴を目的とした客が多く訪れましたが、現在は、「どぶ汁」とは一味違う“さらりとしているが、コクのある”独自の出汁が自慢の「あんこう鍋」や新鮮な海の幸が評判を呼び、妙なる味を目当てに訪れる客が多いそう。1日3組限定の旅館として営業を続けています。

先の東日本大震災時には、ひどい揺れで建物もだめだと感じたものの、避難所



屋号は、初代当主夫人の出身地(市内華川町下相田)の旧地名から。写真上：風情ある建具が配された3階の部屋。平潟港が眼前に下左・中：建物の2カ所に配された階段／下右：3階の階段をのぼりきったところには天窓が設けられている

から戻ってみると損傷はほとんどなかったといいます。その昔、しっかりと材で建て、これまでも代替わりしながら馴染みのある大工さんにその都度補修をお願いしていたおかげかもしれないと、ご主人は語ります。

店主の加藤さんご夫妻に平潟の歴史を聞くのも楽しい



所在地：北茨城市平潟町141
 建築用途：旅館・食事処
 建てられた時期：1、2階—江戸時代末期／3階—明治43年
 構造・特徴：木造3階建て／3階部分を増築した際、3階の天井高が2階部分の天井高より高くなった。窓枠は用途を重視し外側にアルミサッシを入れ直したが、内部には風情ある木製建具が残る。内部階段は、1階→2階、2階→3階への階段が、それぞれ2カ所ずつ巧く配置されている。
 問合せ：TEL.0293-46-0418



天心邸



六角堂

天心邸・六角堂

日本近代美術の黎明の地

六角堂誕生は、岡倉天心が五浦^{いづら}の景色を一目見て気に入り、即座に別荘地とすることを決め、明治36年(1903年)にこの地に移り住んだことによります。天心邸は、明治38年(1905年)、天心が五浦に転居した当初住んでいた古い料亭(観浦楼)の古材を用いて建築されました。

同年、天心は岩場を破碎し自ら六角堂^{あづまや}を建設しました。大波を観る四阿という

意味で、「観瀾亭」と名付けた天心の思想の場所で、釘を使わない伝統工法で造られました。その後数回の改修により創建当初の姿は失われていきます。

平成23年(2011年)3月の東日本大震災の津波により、六角堂は流失。茨城大学は、残された写真や資料から創建当初の姿で再建することとし、茨城県建築士会とともに検討会を重ね、約1年後、平成

所在地：北茨城市大津町五浦 727-2

建築用途：住居

建てられた時期：明治38年(天心邸・六角堂とも) 六角堂は平成24年に再建

構造・特徴：木造平屋建て

問合せ：茨城大学五浦美術文化研究所

TEL.0293-46-0766

24年(2012年)4月に現在の姿に再建されました。宝珠の中には流出後に海底からみつけた六角形の水晶がおさめられました。また、当時の再現をしたガラスが嵌められ、壁は天然弁柄^{べんがら}で染められています。



六角堂の屋根の宝珠には、六角形の水晶がおさめられている



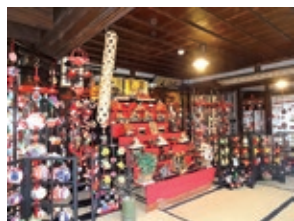
六角堂内部(内部の見学は不可です。特別に許可を得て撮影しています)

野口雨情生家

殿様の休息所を受け継いだ
国民的詩人の生家



北原白秋、西条八十と並ぶ三大童謡詩人と言われ、「七つの子」「しゃぼん玉」などの童謡で知られる野口雨情の生家は、明治初期に建てられました。磯原の海を望むように建つ重厚な造りの生家は、光圀が命名した「観海亭」と呼ばれる水戸徳川藩主の休息所を引き継いだ廻船問屋でした。東日本大震災では1.5mの高さまで津波に襲われましたが、雨情の直



2-3月には見事な飾り雑が部屋を彩る

孫である野口不二子さんの復興にける熱意と信念が雨情の心を現

代に引き継ぎ、往時の生家を甦らせています。

震災後、「野口雨情伝」を書き記した不二子さんは、「雨情を通じて、日本の文化を次世代につないでいくことが私の役目」と語っています。



孫の不二子さんによる「野口雨情伝」

所在地：北茨城市磯原町磯原 73
建築用途：住居
建てられた時期：明治初期
構造・特徴：木造2階建て
問合せ：野口雨情生家・資料館
TEL.0293-42-1891

宇佐美家

和の屋敷と洋の館が
そろい踏み



材木商を営む宇佐美家(宇佐美産業株式会社)は、かつては国内有数の採炭地である「常磐炭田」での石炭発掘に携わっていました。常磐炭田は、戊辰戦争のころには官軍の軍艦に石炭を納入するほどに発展し、往時はこの宇佐美家の近隣を、石炭を積んだトロッコが行き来していたといいます。

敷地内には、江戸末期から明治初期に建築された日本家屋の主屋と、それに隣接して建つ大正末期から昭和初期に建築された洋館があります。2棟の前には広大な池を擁する庭園が広がり、梅雨の時期には黄色い睡蓮が咲き乱れます。



庭の池には見事な睡蓮が咲く



敷地内にある石積み

所在地：北茨城市華川町上小津田 444
建築用途：住居
建てられた時期：主屋—江戸末期～明治初期、洋館—大正末期～昭和初期
構造・特徴：主屋—木造平屋建て、洋館—木造2階建て
問合せ：TEL.0293-43-0617

*写真撮影や敷地内への見学は、必ず宇佐美家の許可を得て行ってください。

タイムテーブル

- この冊子でご紹介している「むかしの家々」を1日で巡るタイムテーブル案です。
- 発着地には、常磐自動車道の日立南太田ICを設定しました。各時間を算出する際の移動手段は普通乗用車を前提としています。*大型車・大人数の場合は、所要時間が増すことが予想されます。
- 1日で巡るルートとしては、目的地が多めの設定になっています。より余裕を持った見学をご希望の方は、この案をもとに日程や見学地の数などをご調整ください。
- 日立市の「暇修館」「小野家住宅」、北茨城の「天心邸・六角堂」「野口雨情生家」「宇佐美家」については時間の都合上、下記のルートに含んでいません。時間に余裕のある方はぜひそちらも見学ください。
- 冬季に巡る際はなるべく早めにスタートしましょう。*日の入りが早く、17時には暗くなりますよ。

見学地	見学時間	移動時間(距離)	時刻(ご参考)
日立南太田IC			8:45 出発
 大みかクラブ	↓ 30分	10分(3.8km) 車で移動	8:55～9:25
 旧共楽館(日立武道館)とその界限散策	↓ 60分	20分(20.3km) 車で移動	9:45～10:45
 日鉦記念館 鉦山資料館	↓ 30分	10分(5.5km) 車で移動	10:55～11:25
 森島酒造・川尻まち並み散策	↓ 50分	30分(14.4km) 車で移動	11:55～12:45
 穂積家住宅	↓ 30分	70分(16.5km) 車で移動 昼食時間含む	13:55～14:25
 たつご味噌蔵・高萩まち並み散策	↓ 55分	5分(0.8km) 車で移動	14:30～15:25
 旧びすつれ	↓ 15分	30分(17.0km) 車で移動	15:55～16:10
 砥上屋旅館・平潟港周辺まち並み散策	↓ 60分	5分(2.9km) 車で移動	16:15～17:15
日立南太田IC	↓ 55分	55分(56.8km) 車で移動	18:10 終了

合計: 約9時間25分 (見学時間: 約5時間30分 / 移動時間: 約3時間55分)

一般社団法人茨城県建築士会について

一般社団法人茨城県建築士会は、茨城県内に居住または勤務する建築士を中心に構成されている組織です。

組織の中には、会としての目的達成と事業活動の効率化のために委員会が設置されています。わたしたち「まちづくり委員会」では、一般の方を交えてのワークショップ、シンポジウムを実施するなどして、住みよいまちづくりに寄与する活動を行っています。

とくに近年では、茨城県教育庁のご協力をいただきながら、「いばらき地域文化財専門技術者育成研修(ヘリテージマネージャー育成研修)」を実施したり、この「常陸国のむかしの家」の冊子を制作するなど、地域に残る歴史的建造物の魅力を活かしたまちづくりに積極的に取り組んでいます。

*本会は茨城県より景観法に基づく「景観整備機構」の指定を受けています。

常陸国のむかしの家 【体感ルート・ガイドマップ】 陸前浜街道・常磐編

発行	一般社団法人 茨城県建築士会	協賛	一般財団法人 茨城県建築センター
	会長 柴 和伸	編集	茨城県建築士会 まちづくり委員会
	〒310-0852		武村 実 / 潮田 充 / 小谷野 栄次 / 豊崎 晋也 / 梶 ひろみ / 杉田 次夫 / 江面 松男 / 中崎 妙子 / 島田 哲 / 岩永 至功 / 津田 むつみ / 佐藤 昌樹 / 篠根 玲子 / 永井 昭夫 / 李 相鉄
	茨城県水戸市笠原町978-30		
	建築会館2階		
	TEL.029-305-0329		
	http://homepage1.nifty.com/ishikai/		



協力 佐川 武男 / 清水 雅史 / 若柳 綾子

デザイン 有限会社 平井情報デザイン室

初版発行 平成28年3月31日

*この冊子に掲載した情報は平成28年3月末現在のものです。



日立市の観光に関するお問合せ

日立市観光物産協会 TEL.0294-22-3111 (代表)

〒317-8601 茨城県日立市助川町1-1-1 日立市役所観光物産課内



日立市の文化財に関するお問合せ

日立市郷土博物館 TEL.0294-23-3231 (代表)

〒317-0055 茨城県日立市宮田町5-2-22



高萩市の観光に関するお問合せ

高萩市観光協会 TEL.0293-23-7316

〒318-8511 茨城県高萩市本町1-100-1 高萩市役所まちづくり観光課内



高萩市の文化財に関するお問合せ

高萩市教育委員会 生涯学習課 TEL.0293-23-1132

〒318-0033 茨城県高萩市本町1-208



北茨城市の観光に関するお問合せ

北茨城市観光協会 TEL.0293-43-1111

〒319-1592 茨城県北茨城市磯原町磯原1630



北茨城市の文化財に関するお問合せ

北茨城市教育委員会 生涯学習課 TEL.0293-43-1111 (代表)

〒319-1592 茨城県北茨城市磯原町磯原1630



北茨城市の天心邸・六角堂に関するお問合せ

茨城大学五浦美術文化研究所 TEL.0293-46-0766

〒319-1703 茨城県北茨城市大津町五浦727-2

